



NO.

いちょう

発行所

待乳山 本龍院

〒111 東京都台東区浅草7-4-1

-0032 TEL. 03(3874)2030

FAX. 03(3874)5280

目に見えないもの

住職 平田真純

仏前や神前で神仏に敬意を表す所作として、私たちは合掌をします。インドなどの南アジアにおいて合掌は、人間同士お互いの挨拶として用いる習慣もあるようです。日本では、お辞儀による挨拶よりも、より宗教的というか、より心のこもった感謝を表す所作になっ

ていっていると思われま

所作というものは、心が込められているときれいに見えるし、心が込められていなければ雑な印象を与えがちです。きれいいに見せることを心がければ気持ちも込めやすく、逆にいいかげんな動作であれば心も集中できません。心と身体は密接不可分のものといっ

いでしよう。そういったことは傍目にもわかり、人との関係においても大きな影響があるでしょう。

所作というのは目に見えるものであり、心というのは目に見えないものです。目に見えるものと目に見えないものは表裏一体であることが、そこから理解できます。神仏の前で合掌するということは、目に見えないものの大切さを感じることもなるでしょう。

信徒の皆様が聖天様に祈願して、目に見えるようなご利益を頂戴したとしたら、それは目に見えない功德の結果であるといえましょう。祈願することで気力や胆力を賜ったかもしれないし、物事の本質に対する智慧を授かったかもしれないし、努力する術をご教示いただいたかもしれないし、その他さまざま形の「縁」をいただいているのだと思います。目に見えないものの大切さとは、「縁」という言葉に置き換えてもよいかもしれません。

浴油祈禱などを申し込まれる折、一祈願に複数の願い事をしてよいのか迷われることもあると思います。が、そもそも一人の人間に関わることに、すべては表裏一体です。すべてはより大きな「縁」によってつながっていますので、あまり複雑に考えずに大事な願旨を中心をお願いをすれば、トータルでよい方向にお導きいただけることでしょう。場合によって多岐な祈願をされるにしても、心は驕らず、欲張らず、一心に、一点を見据えて祈念したいものです。

待乳山使り

たけした事務所法要 報告

二月九日、たけした事務所様の大般若法要を厳修いたしました。たけした事務所様は毎年当山にて法要を行っており、およそ二百名の方が参加されました。大般若経の転読によって、今年一年の厄除けを祈願いたしました。

ボーイスカウト修行体験 報告

二月十六日から十七日にかけて、浅草寺台東七団ボーイスカウトの皆さんが当山に訪れました。住職の法話を聞いた後、僧侶の指導の下、本堂で坐禅を体験しました。静寂な本堂での坐禅は初めての子供たちにとっては新鮮だったことでしょう。翌日、境内の清掃も行いました。短い時間でしたが、ぜひ当山での経験を学校での生活にも活かしてください。



朝まいり会

三月五日、小川了司様の朝まいり会五十周年の表彰を行いました。おめでとうございます。



お宮参り

三月四日、佐藤結衣ちゃんのお宮参りを行い、行者様よりご加護を授かりました。尊天様のご加護で健やかに成長されることをお祈りしております。



四月御縁日大法要 行事紹介

安全講演祈禱会

四月二十一日(日) 午前十一時

講金 一、五〇〇円

皆様の安全を祈願する安全講を執行いたします。私たちの暮らす日本は諸外国に比べ治安がいいと言われていますが、毎日どこかで交通事故が起きており、常に地震や台風などの自然災害の恐怖にさらされております。

いつ自分自身や家族、知人に降りかかるかわからないと思うと、どんな方でも不安になると思いますが、そのような不安を大般若転読による祈願で聖天様の功德をもって取り払いましょう。

お申し込みは事務所にて、用紙にお名前と家内安全、身上安全、交通安全、旅行安全の四種類からお選びください。法要中に住職からの加持を授かった御守りを授与いたします。



安全講特別講演

作家池波正太郎とその作品

安全講終了後、大広間にて鶴松房治氏による特別講演を開催いたします。

当山に隣接する聖天公園には池波正太郎の生誕地碑があり、同氏の作品にもたびたび当院は登場しております。

来年で没後三十年を迎え、三年後には生誕百年を迎えるにあたり、ゆかりの地である本龍院で特別講演を開催する運びとなりました。

入場は無料ですのでどなたでもお気軽にお越しください。

講師 鶴松房治 (つるまつふさはる)

池波正太郎記念文庫・指導員、池波正太郎
真田太平記館・指導員、株式会社オフィス
池波・取締役

御奉納

谷川桃代様より地藏堂の鰐口紐、高岡京子様より貸出用の傘五十本のご奉納を頂きました。ありがたく使わせていただきます。



大聖歡喜天利生記

神仏が衆生に利益を与えることを利生と呼びます。かつての当山誌『待乳山便り』に掲載された信仰体験談をシリーズでご紹介いたします。

私の信仰 ③

伊波幸爾郎

(待乳山便り 昭和二十五年一月発行)

そこで早速、新富町に店を出した。当たりました。その時分には家内も貰い、ちゃんとしていて子供もいた。けれど、どうしてもやはり持前の悪い性分が出てきました。金が出来るとなりふりをこしらえる。なりふりをこしらえてしまうと、どこかへ行って飲みたくなる。また遊びに時間を使いすぎてくる。

他の方はどうかかわかりませんが、当時若い盛りの私はそうでした。そうしたあげく、身分不相応な遊びに溺れてきて、今度はお参詣がおろそかになってくる。

やはりお詣りをして御利益を頂いたら。相応にお礼をよく申し上げ、布施行を心がけていけば間違いないのだけれども、そこがそうは考えなかった。あの時の話はああいう様にうまく話したからあれを買ってくれたとか、ああいう様にうまくやったのだからあの人が金を貸してくれたのだ、という様な気になつて、お聖天様のお力を授かったのだと言うことを忘れてしまう。そうしていろいろ道楽を重ねてしまい、また生活が悪くなつてしまった。

御利益とは

聖天様にお詣りして御利益を得て有難いという信念があつて参詣している時分には、御利益はずんずん頂けるけれども、信念を失つて、あの時はうまく行つたのだ、この時は俺がうまくつたのだ、という様な気になつてみると、日参をサボり出す。

金が無いときは雨が降つても、寒くても暑くても、お参詣に一生懸命だけれども、だんだんと生活が楽になつて来ると時間が十分あるのだから御参詣できののに、怠けてしまう。そうして気持ちが悪くなるから自然自分の仕事に隙ができてしまうのでしよう。

その時分、若いから随分欲張りしました。馬鹿に欲張つたお願いをしました。それがボンボン当たるのです。どんどん授かるのです。御利益は授かったが、その後が悪い。自分が怠けてしまうから御参詣が薄くなる。そこでちよつと世間の景気が悪くなると一ぺんに苦しくなる。その時はまた一生懸命お詫びして働く。

うまずたゆまず御信心をつづけているなら何回も失敗したり人並以上の苦勞をしなくて済むものを、私は何回も何回も繰り返してきた。

二階から落ちる

私は今振り返つてみると、この年になるまで何十年もの永い間に壮健に過ごさせていただいた。

聖天様に御信心する前頃は二、三十代の元気な年なのに、頭痛がして寝てばかりいたのである。今日この様に健康でいられるのも、これまた御尊天様の御加護に他ならないと有難く思っております。御尊

天様の絶えざる御加護というものは教え上げたらきりがありません。つい先頃こんな事がありました。

商売上の会合が某料理屋の二階で催されたのですが、会も後半になつて一寸下へ降りようと思ひ、階段を一段下りた途端に、幾分疲れていたせいもあつたのでしよう。足をすべらし普通の家よりも高い二階から下まで、アツと言う間もなく落ちてしまいました。年が年だけに周りの人たちが驚いてかけ寄つてきました。

「いけない。駄目だ。」と思つたが起こつてみるとそれ程痛みも酷くない。大した苦勞もなく歩けることに皆不思議がりました。何しろ上から下まで一気にすべり落ちたのですからこんな軽いのが不思議です。そう思つた瞬間「尊天様有難うございます。」と心からご真言をお称えしました。

あまり周囲で心配するので、かえつてこちらが決まり悪くなつてしまったので、そのまま真つ直ぐ歩いて帰つてきました。

(次号に続く)

※当時掲載された文章を再編集しています。(文責 編集部)

四月行事予定

御縁日大法要

安全講祈禱会

四月二十一日(日) 午前十一時 講金二、五〇〇円也(一鉢増毎五〇〇円)

皆様の諸事の安全を祈願し、お守りをお授けいたします。

特別講演 作家 池波正太郎とその作品

四月二十一日(日) 正午 参加費 無料

安全講終了後、大広間にて鶴松房治氏による講演があります。ぜひお越しください。

朝まいり会

四月一日〜七日 午前八時から八時半

会費 五〇〇円也

都合のよい日に、ご参加くださっても結構です。最終日には、読誦終了後に食事作法を行います。

日曜勤行

四月十四日(日) 午前九時

参加費 無料

初心の方も気軽にご参加いただけるおつとめの会です。

写経の会

四月十四日(日) 午前十時〜午後一時

会費 五〇〇円也

心を落ち着かせて写経することで、日常を離れ、自分を見つめ直ししましょう。

十分前までに受付してください。午後は比較的空いておりますので、落ち着いて写経が行えます。

坐禅の会

四月二十七日(土) 午後五時〜七時 定員三十名 参加費 五〇〇円也

本堂にて坐禅を行います。定員になり次第、募集を締め切らせていただきます。

合同大般若法要

四月二十五日(木) 午前十一時

法要料 五、〇〇〇円也

心願が成就し、より一層の御加護を頂くために、皆さんとご一緒にお上げする御礼の法要です。

五月の行事 御縁日大法要

香湯加持会

五月二十日(月)

午前十一時

講金

二、〇〇〇円也

ご祈禱のご案内

祈禱料

聖天様独特の供養法である

別座祈禱 壺万円(一週間)

浴油供は、密教の中で最も

浴油祈禱 三千五百円(二週間)

深秘の法とされています。こ

華水供 五百円(一日)

の供養法は聖天様のお力が

法要案内

より一層高められ、私どもが

当山では予約にて法要を行

不可能と思われるような願

つております。寺務所にてお

い事でも、尊天様の不思議方

問い合わせください。

便のお働きを得て、必ず成就

百味供養 法要料 八万円

させて頂けるのであります。

沢山のお供物をお供えし、

当山ではこの浴油祈禱を、

出仕の僧侶が声明をお唱えす

毎朝開堂と同時に厳修して

ること、尊天さまに御礼の

おります。寺務所にて受け付

供養をいたします。

けておりますので、お名前と

大般若法要 法要料 五万円

お願いの内容、祈禱期間をお

所願成就御礼の法要とし

伝え下さい。

て、大般若経六百巻を転読い

またご遠方の方やお急ぎ

たします。

の方は、お電話やお手紙でも

自動車加持 法要料 壺万円

受け付けております。どうぞ

当院にてお車のお加持をいた

お申込みください。

します。当日はお車にてお越

しください。

皆様からのご質問、お知りになりたいことを受け付けております。ご意見や

ご質問は ityou@matsumchiyama.jp

までメールをお送りください。